

祭礼から地域文化を再発見

～歴史・民俗調査による歴史まちづくり～

地域共創学部
地域づくり学科
教授

末松 剛



研究シーズの紹介

本研究は、歴史学における儀礼研究の手法を活用して、祭礼を中心に地域の歴史文化を再発見し、「歴史まちづくり」につなげることを目的としています。

従来、このような活動は専門家による文化財指定や市町村史編纂事業としておこなわれてきましたが、それらをより直接的に地域に還元し、子どもから大人までそれぞれの需要に応じ

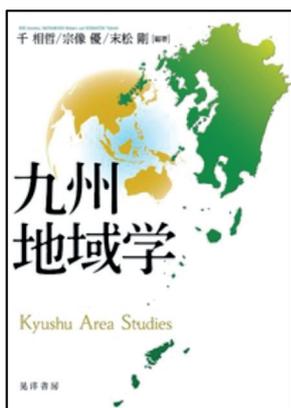
た形態で提供することを、本研究では活動の中心に据えています。

具体的には、地域に伝来する古文書や絵図の調査と成果報告、近年はもっともわかりやすく伝わりやすい媒体として、映像記録の作成と頒布に力を入れて取り組んできました。依頼内容によって報告書の作成や報告会の企画にも応じています。



歴史・民俗調査による 地域の再発見

- 古文書や絵図を読み解き、地域の歴史文化を知ることができます。
- 地域の歴史文化をこれからのまちづくりに活かせます。



← 左書所収「古文書調査による地域文化の実践的研究」では、神仏分離、祭礼、由緒書、旧道、地域伝承、社家、古文書などをキーワードにして、本研究における地域調査活動の内容を紹介しています。具体的には唐原（福岡市東区）の祇園山笠、八所宮（宗像市吉武）の社家文書を取り上げています。

2021年の波折神社（津屋崎市）秋季例大祭は、コロナ禍のなか御遷座800年祭として行われました。その時々地域の取り組みや実情を、調査記録として残します。



期待される活用シーン

- 地域の歴史や文化を再発見し、子どもたちの教育や地域の啓発活動につなげていきたい。



祭礼の準備段階から調査に入り、地域活動を映像に記録。後の資料にもなる映像に編集し仕上げます。



- 地域に伝わる祭礼を指定文化財に認定し、今後の保護・育成につなげていきたい。



古文書や絵図の調査をふまえ、地域の歴史文化を明らかにし、報告書や報告会を作成・企画します。



その他の研究テーマ

町並みや旧道に関する古文書・絵図と現状との比較調査
地域に伝来する古文書・絵図・祭礼の記録
市町村史など地域の歴史文化に関する執筆活動